



健康科学

HUMAN HEALTH SCIENCES GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE KYOTO UNIVERSITY

2009年

第6号

● 目 次 ●

1 原 著

- ①映像選択システムを用いた感情・ストレスに対する色彩映像効果の解析 1
石山 瑠理, 齋藤 ゆみ
- ②ターミナルケアにかかわる看護師のバーンアウトとSOCとの関係について 9
尹 敏愛, 赤澤 千春, 原田美穂子
- ③地域在住高齢者に対するトレーニングが運動機能に及ぼす影響 15
—筋力トレーニングと複合トレーニングとの効果の違いについて—
池添 冬芽, 市橋 則明
- ④バランストレーニング実施頻度が後期高齢者の運動機能に与える影響 21
永井 宏達, 市橋 則明, 池添 冬芽, 建内 宏重, 坪山 直生
- ⑤重度知的障害者への個別支援計画に基づく療育的園芸活動の実践 29
嶋谷 円, 木島 温夫, 黒田 吉孝, 山根 寛

2 諸報告

(1) 臨床活動報告

- ①「がん患者さんとそのご家族のためのウェルネスセッション」研究会の活動 37
齋藤 ゆみ, 江口 恭子, 佐藤 泰子, 萩原 三義, 黒木 裕士

(2) 研究活動報告

- ①人工股関節置換術を受けた人の入院前・退院後の生活実態調査 43
佐野かおり, 宮島 朝子, 立川 麻紀, 石橋美年子, 弓削 悦子,
杉本 正幸, 嶋 靖子, 琴浦 良彦
- ②医療安全教育用模擬事例体験ソフトの開発に向けて —ヒヤリハット・インシデント事例の分析— 49
東 真理, 福田 里砂, 徳光 明子, 赤澤 千春, 鈴木 麻揚, 川上 智子,
林 知江美, 林 優子, 櫻庭 繁, 笹山 哲
- ③視覚障害のある盲学校教員のストレスの研究 53
坂田 真穂, 菅 佐和子
- ④冷え症の定義, 測定, 特徴および妊婦の冷え症に関する文献レビューと今後の研究の方向性 57
西川 桃子, 我部山キヨ子
- ⑤A review of studies seeking evidence-based mother-friendly care for preventing postpartum depression 67
Hatsumi Taniguchi
- ⑥認知症高齢者の尊厳死とリビングウィル —認知症とガンを比較して— 73
古家 彩名, 久保田正和, 木下 彩栄

3 業績リスト

- 看護科学コース ※各講座に所属する教員名を示しています
基礎看護学講座 (齋藤・菅・野本・宮島・若村・鈴木和代)
臨床看護学講座 (櫻庭・細田・赤澤・作田・本田・福田・小西)
家族看護学講座 (我部山・菅沼・鈴木眞智子・谷口・柳吉・清川・千葉・山口)
地域看護学講座 (桂・木下・臼井・久保田)
- 検査技術科学コース
リハビリテーション科学コース
理学療法学講座 (PT)
作業療法学講座 (OT)
- 近未来型人間健康科学融合ユニット

- 4 投稿規程 111
- 5 編集後記 113

投 稿 規 定

1. 投稿資格：著者は原則として京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻教職員（非常勤講師，元教職員，元京都大学医療技術短期大学部教職員，元京都大学医学部保健学科教職員を含む，以下，本専攻教職員），その共同研究者，および本専攻教職員が推薦・紹介する者とする。ただし，京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻紀要編集委員会（以下，編集委員会）が依頼した者についてはこの限りではない。
2. 投稿論文の内容：健康科学の進歩に寄与するものであり，未発表のものに限る。二重投稿は認めない。
3. 著作権：掲載された論文の著作権は，編集委員会に帰属する。掲載された論文等は，原則として電子化し，インターネット等を通じて公開する。
4. 論文の形式：論文は和文を原則とする。英文での投稿を希望する時は，あらかじめ編集委員会に申し出る。
5. 論文の種類：総説，原著，短報，諸報告（論評，解説，活動報告，紹介記事，随想，等を含む）とする。
6. 査読：編集委員会は受け付けた原稿の査読者を決定し，査読を依頼する。総説，原著および短報は，原則として2名の査読者により査読を行う。2名の査読者の意見が不一致の場合は，第3の査読者による査読を行う。諸報告の原稿については掲載を原則とする。但し，編集委員会が適任者として依頼した1名による閲読を行い，編集方針に従って原稿の加筆，削除，および一部の書き直しを指示する場合があります。
7. 採否：投稿論文の採否は，査読結果をもとに編集委員会が決定する。
8. 論文の受付：総説，原著，短報の原稿（図表，資料等を含む）はコピー2部（計3部）を，諸報告の原稿（図表，資料等を含む）はコピー1部（計2部）をそれぞれ添え，編集委員会に提出する。但し，コピーには氏名，所属などを記入しない。掲載が決定した原稿については，最終原稿を記録したフロッピーディスク等も添えて提出する。
9. 校正：著者による校正は再校までとし，校正時における内容の変更や追加は認めない。
10. 印刷費：原則として著者が本専攻教職員，その共同研究者および編集委員会が依頼した者の論文については無料とし，本専攻教職員が推薦・紹介する者の論文については経費を徴収する。なお，原画の描画を外部に依頼するときやカラー写真印刷を希望す

るときなどは，その経費を著者の負担とする。

11. 別刷：別刷は30部を単位とし，30部をこえる分の経費は原則として著者の負担とする。CD-ROMを著者に配布する。

原稿作成における留意事項

1. 原稿は原則として，常用漢字，ひらがな，現代かなづかいを用い，A4判用紙に40字×30行程度でワープロを用いて印字する。句読点は。 ， を用いる。外国語固有名詞（人名など）は原語を，一般に日本語化された外国語は，カタカナを用いる。度量衡単位はCGS単位とする。
2. 原稿の枚数（1枚40字×30行，本文・文献・図表を含む）：原則として原著および総説は10枚以内（刷り上がり10頁以内），短報および諸報告は4枚以内（刷り上がり4頁以内）とする。ただし，編集委員会が指示した原稿についてはこの限りではない。
3. 表紙（原稿第一頁目）には表題，著者名，所属およびその所在地をこの順に従って書く。著者の所属の表記は，筆頭者は無記号，共著者の所属が異なる場合はその著者名の右肩およびその所属名の冒頭に，*，**，印をつけ，区別する。原著では続いて，英文の表題，著者名，所属を書く。著者名の姓は，大文字で表記する。さらに，ランニング・タイトル，希望する論文の種類，原稿の枚数，図表の数，別冊希望部数を書く。
4. 次頁には，英文抄録（200 words程度）およびKey words（8語以内）をダブル・スペースで書く（原著の場合）。
5. 論文の項目の区分は，原則として下記の例に従う。
大項目…無記号のゴシックで記し，前を一行あける。原著論文のはじめに，方法，結果，考察などが相当する。
小項目…以下の順で使用する。
1. , 2. ……行の第1字目に記す。
1), 2) ……行の第2字目に記す。
6. 図および表にはそれぞれ別の通し番号をつける。図版や写真は，図として扱う。図はなるべく原寸大とし，明瞭でそのまま印刷できるものとする。図・表の説明文は，まとめて原稿の末尾につけ，原稿本文中の欄外余白部に，図・表の挿入位置を朱記し明示する。
7. 謝辞は，本文の末尾に入れる。
8. 文献は，下記の要領に従い，引用順に配列し，本文の末尾に一括記載する。本文中の文献引用文など

の右肩に、その文献番号を¹⁾, ^{1,3,6)}, ²⁻⁵⁾のよう
に記す。

雑誌の場合

[著者名：表題. 雑誌名 発行年（西暦）；巻数（必
要であれば号数）：頁（始-終）]の順に記す。雑誌名
の省略記法は、和文誌については日本医学誌略年表
（日本医学図書館協会編）、英文誌については Index
Medicus に従う。

〈例〉

- 1) Sakaguti K, Jameson EW: Two new fleas from Japan.
J Med Zool, 1959; 10: 156-162
- 2) 菅沼美奈子, 内山和美, 三井政子: 性周期記録表
の試み. 母性衛生, 1978; 19: 76-82

単行本の場合

[著者名：書名. 発行地：発行所, 発行年（西暦）：
頁（始-終）]の順に記す。

〈例〉

- 1) Eliot TS: The Complete Poems and Plays. London:

Faber & Faber, 1969: 25

- 2) Pedretti LW: 身体障害の作業療法（小川恵子, 山
口 昇, 青木真由美訳）. 東京：協同医書出版社,
1985: 103-115
- 3) 砂原茂一: リハビリテーション. 東京：岩波書
店, 1980: 20-28

編集図書の場合

[章の著者名：章のタイトル. 編者名. 書名. 発行
地：発行所, 発行年：頁（始-終）]の順に記す。

〈例〉

- 1) Schwarts TW, Tager HS: Biosynthesis of pancreatic
polypeptide. In: Bloom SR, Polak JM, eds. Gut
Hormones. 2nd ed. Edinburgh, London, Melbourne,
New York: Churchill Livingstone, 1981: 202-205
- 2) 富田 仁: 救急時検査の手技と解釈・アミラー
ゼ. 富田 仁, 熊谷直家, 内田耕太郎 編, 検査
診断マニュアル. 第1版. 東京：メヂカルフレ
ンド社, 1978: 96-99

編 集 後 記

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻紀要「健康科学」第6号をお届けいたします。ご高覧いただきたく存じます。

今年度より、博士課程も開設され、教育・研究ともにより一層の努力が期待されていると思います。それとともに、この「健康科学」もより質の高いものへ向かっていくものと思われます。著者の皆様におかれましては、ご多忙の中ご投稿いただき、誠にありがとうございました。来年度もご活躍いただき、是非ともその成果を示す場として、この「健康科学」ご活用いただければ幸甚です。

(文責・石橋 誠)

編 集 委 員

石橋 誠 上野 智弘 白井はる奈 千葉 陽子

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻紀要「健康科学」第6号

平成22年3月31日印刷・発行

発 行 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻
〒606-8507 京 都 市 左 京 区 聖 護 院 川 原 町 53
TEL.075-751-3901

印 刷 山 代 印 刷 株 式 会 社
〒602-0062 京 都 市 上 京 区 寺 之 内 通 小 川 西 入
TEL.075-441-8177

ANNUAL REPORTS OF HUMAN HEALTH SCIENCES

GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE, KYOTO UNIVERSITY

VOLUME. 6 2009

CONTENTS

Originals

Ruri ISHIYAMA and Yumi SAITO : Analyses of Color Imaging Effects on Psychosomatic State Using an Image Selection System	1
Mine YUN, Chiharu AKAZAWA and Mihoko HARADA : The Relation between the Burnout Score and the Sense of Coherence (SOC) to Nurses who Worked in Terminal Care Unit.....	9
Tome IKEZOE and Noriaki ICHIHASHI : Effect of Resistance, Balance and Power Training on Physical Function in Community-dwelling Older Adults	15
Koutatsu NAGAI, Noriaki ICHIHASHI, Tome IKEZOE, Hirosige TATEUCHI and Tadao TSUBOYAMA : Effect of Balance Training Frequency on Functional Improvement in Elderly People over 75 Years of Age.....	21
Madoka SHIMATANI, Haruo KONOSHIMA, Yoshitaka KURODA and Hiroshi YAMANE : Individual Support Design for Development of Severely Mentally Retarded People and Therapeutic Horticultural Activity at the Vocational Aid Center	29

Reports

Yumi SAITO, et al	37
Kaori SANO, et al.....	43
Mari AZUMA, et al.....	49
Maho SAKATA, et al	53
Momoko NISHIKAWA, et al	57
Hatsumi TANIGUCHI.....	67
Ayana FURUYA, et al	73

Bibliography	79
---------------------------	----

Instruction to Authors	111
-------------------------------------	-----

Editorial Notes	113
------------------------------	-----